

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073000491		
法人名	株式会社 データベース		
事業所名	我楽ちくしの	ユニット名	1F
所在地	福岡県筑紫野市大字山口865-1		
自己評価作成日	平成26年7月20日	評価結果市町村受理日	平成26年9月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成26年8月19日	評価確定日	平成26年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・規則のないのが規則で入居者様本位の生活ができるように支援している。 ・地域との連携を大切にする。 ・1汁4菜の充実した職員手作りの食事を提供している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>“我楽ちくしの”には、実のなる木(すもも、さくらんぼ、梅など)を植えている。入居者の方々と一緒に収穫したり、庭から川のサギを眺め、稲の変化を見ながら季節を感じる事ができる。春になると「つくし」「よもぎ」「ふき」などの野草を採りに行き、天麩羅等のお料理にして食べられている。3食の食事は一汁四菜で、“食べる事を楽しんで頂きたい”と言う代表の思いを職員が大切に引き継がれている。地元の山口区の取り組みも素晴らしく、夏祭りや敬老会、芋ほり等にも招待して下さり、入居者の方々も童心に戻られて楽しんでいる。ホームの行事にも地域の方を招待し、杵と臼を使った餅つきの際は、入居者も“昔取った杵柄”で餅を丸めて下さった。日々の生活でも入居者個々の役割が発揮されており、不穏な入居者に他の入居者が寄り添い、お気持ちを落ち着かせて下さる方もおられる。共に助け合う生活が続けられているのは、課長、主任と共に、全職員の頑張りの成果である。これからも1日1日を大切に“思うがままに楽しく(我楽)”生活できるように、職員の力を結集していく予定である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの最後に全員で理念を唱和し意識付けを行っており、各入居者様の生活ペースに合わせた支援を行なっている。	入職時には、主任から新人職員に理念を伝えており、課長や主任、先輩の姿勢から理念を学ぶ機会になっている。入居者の得意な事などを発揮して頂き、入居者の希望を尊重した支援を続けている。医療ニーズが高い方も、“安心感”を与えて差し上げる介護の在り方を検討していく予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度1年間、地域の役員(班長)を任せ月2回の広報配布を行なっている。今まで顔と名前が一致しなかった方も配布の際に「ご苦労様」「有り難うございます」など声をかけて頂くようになり、お互いにより身近な存在としてお話ができるようになった。	地域の敬老会に参加している。ホームの敬老会には、婦人部の方のワグダンスが行われ、子供会の芋ほりにも参加させて頂いた。地域家族交流会(5月・10月)や他の行事にも地域の方を招待し、バーベキュー等を楽しまれている。参加者が増えており、職員も嬉しく思っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域家族交流会の際、会話の中で認知症についての理解を深めて頂くようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月間の状況を報告し、ご意見や質問などを受け話し合いをしている。地域の代表の方々からは花見スポットなど地域にまつわる情報を色々頂き、活用している。	地域代表の方々からは地域情報を話して頂き、子供会で栽培している芋ほりに参加させて頂いた。お薬に詳しい家族の方からは、お薬のアドバイスを頂いている。今後も、グループホームの役割や取り組みをお知らせし、必要な地域支援の在り方を検討していく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃は連絡を密にしているとは言えない。運営推進会議の際、それまでのケアサービスの報告をした上でお互いの疑問点を話し合っている。	実地指導では様々な指導を頂き、早々に改善も行われた。事務主任が市の窓口を訪問したり、課長や主任が事故報告書を提出した時にも、事故報告の仕方や事故防止策についてのアドバイスを頂いている。今後も人員体制などを細やかに相談していく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外出したがる方がおられるが玄関を施錠したりせず、出来る限り付き添って一緒に出かける様にしている。足のふらつきがあり転倒のリスクがあっても拘束せず動きたい時に動ける様、援助している。	感情が不安定になられる時は、ご本人の思いに寄り添い、散歩などを一緒にしている。医療ニーズが高い方もおられ、ミトンを使用している方もおられる。医師から嚙下禁止の指示までは出ておらず、看護師等が飲み込めるものを食べて頂く支援を続けている。	身体拘束廃止推進員養成研修に職員が参加している。今後は更に伝達研修を徹底し、職員全員で身体拘束廃止に向けた取り組みを続けていく予定にしている。身体拘束の3条件や記録の重要性も再勉強していく予定である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	改めて学ぶ機会は設けていない。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用される入居者様がおられるため、必然的に職員も学ぶ機会をもっている。	現在、両ユニットともに制度を利用されている方がおられる。後見人の方とお会いしながら、制度を学ぶ機会になっている。制度に関するパンフレットを準備し、個別に家族への説明が行われている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族やご本人とお会いし十分に説明を行ない同意書を頂いている。また解約時のご理解頂くまで説明をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には常時、意見箱を設置しており、外部者向けには「苦情、相談窓口」のポスターを貼り出している。またケアプラン作成時には直接意見や要望を伺い反映させている。	家族とは面会時や電話で意見や要望を伺っている。外出への要望や薬に関する思いも把握し、可能な限り願いを叶えるようにしている。年2回の地域家族交流会では、家族同士の交流も行われており、今後も家族の面談を継続し、真の思いを把握していきたいと考えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は系列施設の訪問を行ない、直接職員の声を聴き出来る限り反映させるよう努めている。	朝の申し送り時などに職員間の意見交換を続けている。気付いた事があった時は申し送りノートに記載し、職員間で共有している。人員体制を整えるために系列施設からの人事異動も行われている。催事担当の職員が行事企画を頑張られている。	新しい職員も加わり、新たな視点で最適なケア方法や業務の在り方のアイデアが湧いてきている。長年の伝統的な業務の在り方を見つめ直し、課長を中心に両ユニットの主任を支え、より良いチームワークに繋がっていく事を期待していきたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件の改善のために4週6休から4週8休とし少しずつではあるが給与引き上げにも努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別、年齢、経験による差別はせず採用を決定している。職員同士の勉強会を実施し個々の能力を引き出すようにしている。	部長・課長が面接をしており、介護の経験はなくても、“やる気や介護に対する熱意”を大切に採用している。実際にホームで働いて頂き、ご本人の能力の把握を続けている。個々の職員の課題に対しても、根気強く指導が行われ、適正の見極めを続けている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝の申し送り後に日常生活全般(排泄、入浴時等)において対応方法の善し悪しをディスカッションしている。	職員は、入居者のペースを尊重し、規則に縛られない生活を心がけている。日々のケアの場面では、課長や主任から言葉遣い等の指導が行われている。理念にも「安心感を与えて楽しく、優しく、笑顔で接します」と掲げており、職員も日々意識して取り組まれている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員に必要と思われる研修案内があれば受講するよう指示し受講費用を施設側で負担している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は特になし。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族、担当ケアマネジャー等より情報入手しその中からご本人が不安に思っている事や要望を把握し、入居時には個々に応じたケアが出来るように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同じく、ご家族が不安に思っている事や要望を入居前から数回にわたり聞き出し、安心して入居出来るよう支援している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から入居時にかけて、ご家族やご本人、担当ケアマネジャー等から体調面、精神面など充分聞き取りを行ない、入居前に入院の場合は担当医や地域連携室の担当者と密に連絡をとり、必要としている支援を見極める様にしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや洗濯物干しなど力に応じ一緒に行なっている。不穏な入居者に他の入居者が寄り添い落ち着かせ共に助け合う生活を実施している。また男性職員が入居者様から料理のレシピを教えてもらったりしてレパートリーを増やしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご家族へ問題点の相談をしたり、遠方のご家族には電話やお便りで近況報告や相談をしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所の話をして当時の思い出を掘り起こしている。	地域の敬老会に参加される方もおられ、馴染みの方が出迎えて下さった。普段の世間話から入居前のお話を伺い、入居前の行きつけの飲食店にお連れする事もできた。家族と馴染みの食事処に行かれたり、自宅に帰られる方もおられ、馴染みの関係の継続を大切にされている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士はリビングでの席を同じテーブルにしたり反対に気の合わない方同士はぶつかり合わないよう配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される際、次の施設へ詳しい生活歴、既往歴などを報告し、今後も相談に乗れるような関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で希望や意向を把握し、極力その思いに添えるよう支援している。(居室環境、買い物同行、食事の時間、食事を摂る場所等)	ご本人や家族に生活歴や趣味などを伺っている。日々の会話の中で、入居者の思いを知るように努めている。意思表示が難しい方は、表情や行動から気持ちを汲み取り、家族からの意向を聞く機会も増えている。「仕事がしたい」と言われる方にも、仕事の内容の検討を続けている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のサマリー作成時に把握し職員全員で共有している。また面会時にご家族から情報収集している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りに加え入居者様との会話、介助の際に現状の把握をしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護に関わっている職員全員の思いや意見を出し合いご家族にも相談したうえで意見を取り入れ現状に即した介護計画を立てている。また退院後の入居者については入院時のサマリーや医師の意見を元に必要なプランについては継続して実施している。	ご本人の意向が反映された素敵な表現の計画になっている。24時間時系列の3表が作られ、福祉タクシーの活用や理学療法士が作成したリハビリも実施している。リハビリに関する担当者会議も行い、評価表を担当者が記入している。計画に基づく実施のチェックも行われている。	“ご本人の計画”と言う視点を大切に、文字の大きさにも配慮し、ご本人への説明も徹底していく予定である。ケアマネ中心に計画を作成する予定であり、カンファレンスを開催し、ご本人の更なる能力の把握(ケアの標準化)に繋げていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子に加えケアの実践や気づきも個別に記録しており朝の申し送りで職員間に情報を伝達し共有して実践に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば郵便局や買い物に同行したり、入浴日以外でも必要に応じ入浴していただいている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の周囲には自然が多く、春になると「つくし」や「よもぎ」「ふき」など野草を採りに同行し、即日食卓に出して召し上がって頂くなど楽しんで頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、事業所のかかりつけ医で受診して頂くが、希望があればかかりつけ医と相談の上、他の医療機関でも受診できるようにしている。また、身体的、金銭的な重要な事柄はご家族同席でかかりつけ医に相談している。	“定期的に往診をして頂ける”と言う事で、協力医療機関に変更される方が多い。医療ニーズの高い方は月2回訪問診療があり、必要に応じて家族にも同席して頂いている。職員の小さな気づきも多く、主任等への報告も行われている。今後もホームの看護師との情報交換を深める予定である。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は病院との窓口になり介護職と日常的に相談しあいながら健康管理をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間中、毎日職員がお見舞いに行き早期退院に向け病院関係者やご家族と情報交換をしながら関係作りに努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず入居時に確認し、重度化の初期にはご家族と充分話し合いを行ないかかりつけ医に報告、相談し方針を決めている。	「最期はホームで…」と希望される方もおられる。状態の変化時は繰り返し家族と話し合い、状況に応じて、家族に宿泊して頂き、ご本人が安心できるような看取り体制が取られている。24時間体制で看護師からの指示を頂く事ができ、体調に応じて看護師が点滴を行い、医師から家族に説明をして頂く機会も作られている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行えていないため、消防署に依頼し今後勉強会やAEDの使用方法など訓練を行う予定。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は夜間を想定した訓練も実施している。地域の消防団の方々に災害時の救助を依頼し建物内外の視察に来て頂き連絡先の電話番号一覧表を頂いた。	AEDの設置をしている。放火や煙草の火など、色々な場面を想定した訓練が行われ、夜間はホーム内に2人の職員が勤務しており、他の職員も駆けつけ、連携して対応する体制ができています。消防団の見学もあり、助言を頂いている。災害に備え、飲料水や栄養補助ゼリー等を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室の際は必ずドアをノックし、声掛けしてから入室するようにしている。トイレ介助の際は必ずドアを閉める。申し送り時や情報交換の際、入居者に名前が分からない様配慮している。	入居者と目線を合わせ、一人ひとりに応じた声かけを行うようにしている。羞恥心への配慮も行い、排泄時のドアは閉め、希望に応じて入浴時なども同姓介助を行っている。申し送り内容が分からないよう、お名前ではなく番号で報告するようにしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい言葉で声掛けし、選択しやすい質問方法を心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は基本リビングで摂って頂くことが多いが希望や体調により居室へお届けすることもある。食事時間も個々のペースを大切に考え他の入居者様より遅くしたり、また食事時間が長くなる方にはゆっくり食べて頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問理美容を利用いただいている。美容室に行きたいとの希望がある方には同行し、おしゃれを楽しんで頂いている。また化粧品等の購入はご家族に了解を得て買い物に同行し好みの品を購入して頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	クリスマス会などの行事ではバイキング形式にして普段と違う雰囲気を楽しんで頂いたり、春には近くに山菜(よもぎ、ふき)を職員と一緒に採りに行って頂き、当日食卓に出し、新鮮さと自分で採ったという気持ちが美味しさにつながったようだった。	畑の野菜を入居者と収穫しており、お米とぎやお茶入れ、茶わん洗い等もして下さっている。男性職員が入居者から料理のレシピを教えて頂き、レパートリーを増やしている。1汁4菜を心がけ、器にも配慮し、盛り付けも大切にされている。ホットプレートを使い、たこ焼き作り等も楽しまれた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事摂取量をチェック、記録し摂取量が少ない場合は柔らかくしたり小さくしたりして工夫している。職員が検食を行ない栄養バランスもチェックしている。食後、入浴後、外出から戻られた時等に水分補給を実施。食欲がない事が続いた場合は栄養保補助食品などを摂って頂いている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後、夕食後を重点的に口腔ケアを実施。力に応じ自力ですて頂いたり、職員が介助している。月3～4回は訪問歯科によりケアを依頼している入居者もある。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツを布パンツに変更したり、日中は本人による訴えや職員からの声掛けによる誘導を重点的に行なっている。	排泄が自立している方もおられ、布の下着を着用している方もおられる。尿意や便意の訴えがない方も定期的にトイレ誘導をしている。夜間はボトルを準備する事で失禁が減ったり、紙パンツから布の下着に変更できた方もおられる。便失禁時には適宜シャワーをしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行ない記録し、便秘の方にはトイレにて腹部マッサージとご本人に踏ん張って頂くなど排便しやすい様支援している。毎朝牛乳を飲んで頂いている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	回数や時間など個々の希望に合わせて対応しており、入浴日にどうしても入れなかった方については翌日入浴して頂いている。羞恥心を考え女性入居者様には女性職員が介助するよう支援している。	ご本人が一番リラックスできる職員が声かけする時もある。入浴中は会話を楽しみ、歌も唄われており、日によって入浴剤を変えている。安心して入浴できるように、滑り止めマットやシャンプーハット等も利用している。脱衣所には個人用の戸棚があり、ご自分のシャンプー等を保管している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの希望に合わせ、昼寝や休息をとって頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職と介護職間での情報共有を行なっているが新人職員の理解については今後、より一層の教育を行なう。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	力に応じ洗濯物干し、食器洗いなど役割を持って頂いている。また買物や山菜取りに同行して頂いている。個人で新聞をとっている方もある。縫い物など得意な力を発揮して頂いている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの自然にふれることのできる花見や菖蒲見物など地域の方々にも協力して頂いている。地域の夏祭りにも招待して頂き参加してもらっている。また個々の希望に副って買い物や山菜取りに同行している。	ホーム周辺の散歩をされたり、ご利用者も一緒に地元のコミュニティーセンターに牛乳パックを持って行かれている。山菜を採りに行き、天麩羅にして食べられたり、太宰府天満宮等へのドライブも楽しまれている。希望に応じて喫茶店に行かれたり、化粧品などの個人的なお買い物にもお連れしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたい希望のある入居者様には所持して頂き買い物の際には支払いやお釣りの受け取りなどもして頂いている。所持していない入居者様でも買い物の際、ご家族からの預かり金から支払いをして頂く事もある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日や誕生日祝いの贈り物があつた際に、お礼の電話をしたいとの希望があり支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの行事の際は雛人形、5月人形、七夕飾りを飾り季節感を出すようにしている。清掃担当職員により共用空間が毎日清潔に保たれ居心地良く過ごせるようにしている。	リビングからの眺めも良く、ソファーやテーブルの位置を変え、色々な場所で話ができるようにしている。リビングと台所が一体化しており、お料理の音や香りを感じながら過ごすことができる。季節に応じた花を飾り、会話のきっかけになっている。入居者の写真や要望などを掲示し、入居者の書かれた習字等も貼られている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファー、廊下にベンチを置きいつでも誰でも利用できるようにしている。食堂での食事やお茶の時間には気の合った入居者様同士で同じテーブルに座って頂き居心地良くなる工夫をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご家族に馴染みの物をお訊ねし、持って来て頂いている。施設での生活が続く中で、ご家族と一緒に自宅に帰られた折に必要なものを持って来られている。	ベッド、エアコン、カーテンは備え付けで、タンスや冷蔵庫、ソファー、テーブル、テレビ、時計、ぬいぐるみ、人形、鏡、ラジオなどを持ち込まれている。ご本人が作られた飛行機を天井から下げている方や、大切な位牌や遺影等を居室に置かれている方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室等に手摺を設置し、出来る限り自力歩行が出来るよう支援している。廊下は広くとり車椅子や歩行器が安全に通行できるようにしている。自分の洗濯物は自分の部屋に干したいとの希望があり、室内用の物干しを設置した。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			